



# 木曽林務課だより 10月

木曽地域の町村では、近年防災機能の強化や、住民サービスの向上のために庁舎の新築が進んでいます。これらの新庁舎は、木曽の木をうまく活用した木造公共施設で、今回は木曽町本庁舎と上松町庁舎が、「令和3年度木材利用優良施設コンクール」で表彰されることになりました。

## 木曽町本庁舎が「林野庁長官賞」、上松町庁舎が「優秀賞」を受賞

木材利用推進中央協議会主催の「木材利用優良施設コンクール」は、木材利用の一層の推進を図るために特色のある施設等を表彰しています。このコンクールで木曽町役場本庁舎が「林野庁長官賞」を受賞することになりました

木曽町本庁舎は、「木曽産材を使う」、「木曽で製材する」、「木曽町の職人が建てる」、「木曽の建築技術を使う」を主なコンセプトとして、平屋の大規模木造施設では類をみないヒノキ、カラマツ、サワラ等の無垢材を活用した在来軸組工法で建てられました。使用された木材は、木曽産の木材838.2m<sup>3</sup>で、柱等の構造材の40%が町有林で伐採したヒノキなどで賄われたことも特徴です。



木曽町本庁舎

構造材に使われた針葉樹の他に、ベンチや机、カウンター等には、ケヤキ、クリ、カツラの広葉樹が、それぞれの特性を活かして使用されています。

施設の建設は、森林組合等の伐採業者、木曽官材市売協同組合、木曽木材工業協同組合、木曽町木材住宅推進協議会等の木造建築に係る木曽地域の関係者と町が一つになって進められました。



樹種特性を活かした地域材利用

外観の特徴である大きく張り出した屋根を梁で支える構造は、中山道である伝統様式の「出梁造り（だしばりづくり）」を発展させた強靱な新しい木造様式と「本棟造り」で、「100年先の未来にも残る木曽の象徴」となる木材建築となりました。



「出梁造り」を活かした新しい木材ユニット構造



「本棟造り」で使いやすい空間創出

バリアフリーで利用しやすい庁舎内には、居心地のよい「待合の間」、子供たちが楽しむことができる木製遊具のある「キッズコーナー」など、用事がなくても訪れたいくなる庁舎になっています。

SDGsにも配慮し、通年町内から得られる木材チップを利用したバイオマスボイラーによる冷暖房システムが導入されていることも大きな特徴です。



キッズコーナー



バイオマスボイラー棟

上松町庁舎も本コンクールで「優秀賞」を受賞されることになりました。

上松町庁舎は、70年前の上松大火の経験と準防火地域であることから、ヒノキなどの地域材を約270m<sup>3</sup>を利用した木造と鉄筋コンクリートの混構造で建設されました。混構造にしたことで耐火性能を満たした防災拠点でありながら、建物内部は無垢材を組み合わせた極太の合わせ柱、合わせ梁の見える木造空間が本庁舎の大きな特徴です。



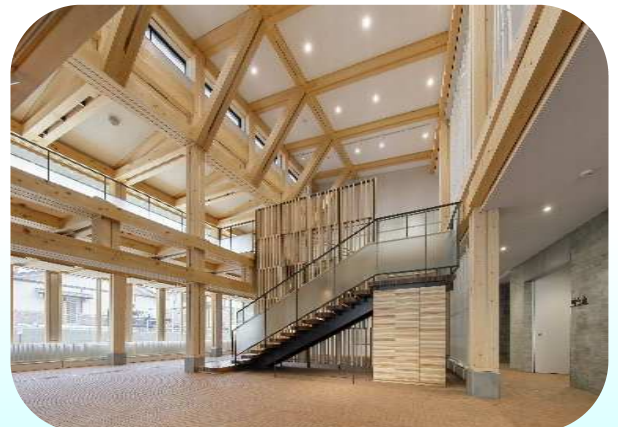
上松町庁舎



ヒノキの匂いに包まれる庁舎内部

また、木曽五木を使った町民ホールや、環境や防災のために導入された地中熱エネルギーの利用システム、除湿型放射冷・暖房パネルなどが導入されており、住民の方が利用しやすい快適な空間になっています。

木曽地域を代表する新しい木造施設を是非訪れてみてください。



木曽五木を内装に使った町民ホール